

### 小正月行事 とんど焼き 「明石浦の左義長」

昔は、正月飾りや書初めを焼く「とんど焼き」は、1月15日（小正月）の早朝に行っていましたが、成人式の日が、曜日によって変化するようになり、「とんど焼き」（どんど焼き、左義長などともいう）も成人式の日か、その前日の日曜日に行われるところが多くなりました。

明石浦漁業協同組合（明石市岬町）が中心となって行う「明石浦の左義長（さぎちょう）」は、今年（平成31年）は1月13日（日）の早朝8時から、明石浦漁業協同組合を少し東へいった海岸で始まりました。前日に立てた「赤い鯛の張り子2対」と「青いサワラの張り子1対」と「天地円満和合海上安全大漁と墨書した吹き流し」「カレイやタコ、ハマチなどの張り子」をつけた巨大な飾り物を、たくさんの青竹で囲み針金で縛りつけていきます。その後、近くの伊弉册（いざなみ）神社宮司による祝詞後、漁業組合長や各町代表者が火のついた藁松明で、飾り物に着火していきます。

わずか5分ほどで、火柱が上がり、ほとんどが燃えてしまいます。しばらくの間燻り、燃え残った灰を火箸でとり、缶などに入れて家へ持帰り、家内安全や無病息災を祈ります。明石浦の左義長は、巨大な魚の張り子が特徴で、燃え方で漁獲の吉兆を占います。

目の前に明石海峡、淡路島を臨む最高の景色を背景に、勢いよく立ち昇る炎は壮観です。竹が弾ける大きな音、それを見守る多くの人々。「今年が最後の左義長かも」「今年も見れてよかった」など、何人かの高齢者がお互いに話す声と、無言で行事の下支えをする若手組合員の姿が大変印象的でした。一年の祈りが凝縮された、子どもの声も響く、1時間余りの賑わいでした。

地域には貴重な歴史文化遺産が残されています。地元で育った生徒は、小学校からの地域学習で学んできていると思います。明石西高校の周りをこれから調べたいと思います。

